

今月のテーマ

男性が気をつけたい病気・症状

～その2・前立腺がん～

◆前立腺がんとは？

前立腺がんは前立腺の辺縁（外周）部に発生することが多いがんです。初期のがんでは、特に症状はありません。排尿の異常など他の理由で泌尿器科を受診したり、健康診断で前立腺特異抗原である PSA の異常を指摘されることにより発見されることが多くあります。腫瘍が進行すると前立腺肥大症と同様に排尿困難や血尿を起こします。さらにながが膀胱へと拡がると尿管を圧迫し、水腎症となります。前立腺がんは特に骨に転移しやすく、転移部位に痛みや骨折が起こります。また脊椎骨に転移した場合、転移巣が脊髄を圧迫して麻痺症状が出る場合があります。PSA の高さの程度によってがんの確立率がほぼ決まっており、4ng/ml 前後の場合でも約 30% の方にがんが発見されます。

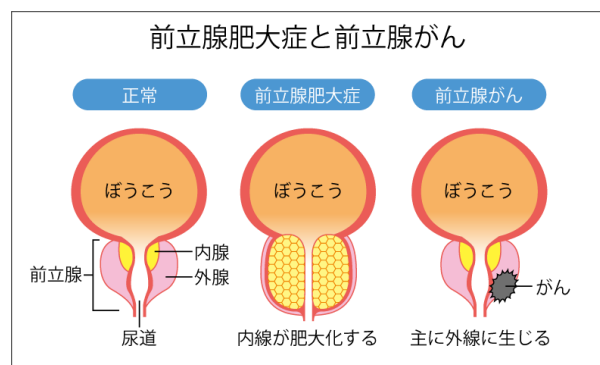
◆前立腺がんと前立腺肥大症の違い

前立腺がんと前立腺肥大症は症状が似ていますが、この2つはまったく別の病気であり、発症する部位もメカニズムも異なります。2つとも腫瘍であることに変わりありませんが、決定的な違いは前立腺肥大症が良性腫瘍であるのに対し、**前立腺がんは悪性腫瘍**であるという事です。良性腫瘍は決して体に良いものではありませんが、増殖のスピードが遅く、転移することもほとんどありません。切除すれば再発することもほとんどなく、切除せずに経過観察だけする場合もあります。一方、悪性腫瘍は増殖のスピードが速く、転移の危険性もあります。切除しても再発する危険性もあり、生命に危機を及ぼすこともあります。

また前立腺肥大症は尿道を取り巻く前立腺の内腺に多く発症しますが、前立腺がんは前立腺の外側に位置する外腺に発症します。この腫瘍と尿道との距離が自覚症状として感じるまでの時間差に現れ、前立腺がんは腫瘍と尿道との距離があるために、排尿障害が起こるのも遅くなります。つまり、**前立腺がんでは排尿障害が起きた時には、それだけ癌が進行していること**になります。排尿障害が起きた際に前立腺がんを疑わず、年のせいにして、前立腺肥大症だろうと思いついで受診しなければ、さらにながががんは進行してしまいます。自覚症状を感じたら速やかに病院を受診しましょう。

◆早期発見のために

前立腺がんはもともと欧米人に多く発生する癌でした。しかし、日本でも 1995 年頃から急激に前立腺がん患者が増加するようになり、1975 年には罹患数が 2000 人程度でしたが、2006 年には 4 万人以上に跳ね上がっています。さらに、2015 年の前立腺がん罹患数は 9 万人を超え、男性が罹患する癌の中で患者数が第 1 位に躍り出ると考えられています。前立腺がんは早期発見・治療することができれば、**約 90% の人が完治の期待できるがん**です。しかし、初期の前立腺がんは特有の症状がなく、早期発見することが非常に難しいがんでもあります。しかし、前立腺がんは自覚症状が少ないですが、検診では肺がんや胃がんよりも発見しやすいです。そのため、定期的に検査を受けて発見の機会を増やす事が、前立腺がんの早期発見には何よりも大切です。50 歳を超えたら前立腺がんを意識し、症状がなくても定期的に前立腺がんの検査を受けるようにしましょう。

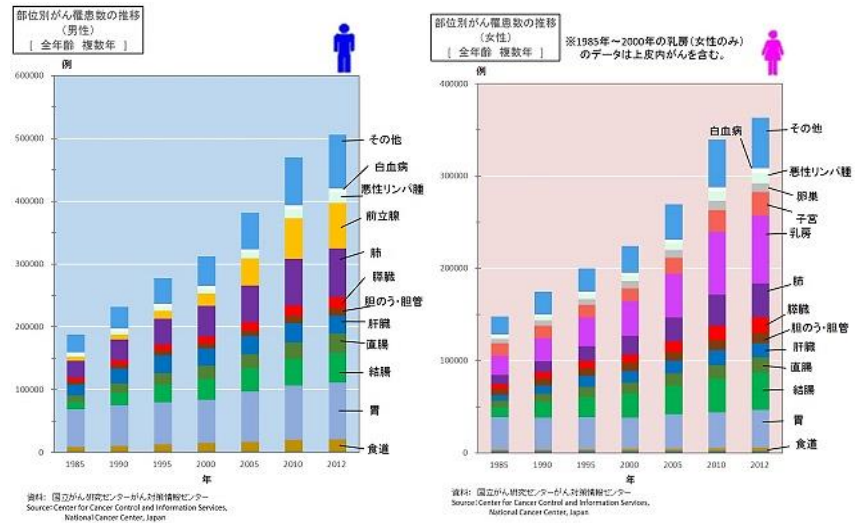


◆がんの未来予想図

現在（2015～2019年）のがん年間死亡数は男性22万人、女性15万人程度です。男性にがん死亡が多いのは、喫煙・飲酒などの生活習慣の男女差が主因と考えられます。20年後（2035～2039年）の死亡数は、男性は約21万人で5%減少すると見込まれますが、女性は約17万人と11%も増加すると予想されています。また、がん罹患（新たにがんと診断される人）は現在、年平均で男性57万人、女性41万人程度です。これが20年後には男性で64万人、女性は53万人と推計されます。罹患数は男性で13%、女性はなんと30%も増える見込まれています。これまで死亡数・罹患数ともに「男性優位」といえる病気でしたが、今後は男女差が埋まると予想されています。

◆ライフスタイルで変わるがん

がんは老化現象の一種ですが、高齢化の影響を除いても1980年代の半ば以降、発症者は増えています。特に男性では前立腺がん、女性では乳がんの増加ペースがずば抜けています。日本人のインスリン分泌量は欧米人の半分程度だと言われていいます。この50年で肉の消費量が10倍近くになり食の欧米化が進行している一方で、運動不足などによって糖尿病が増えたことも、日本でがんが増加している要因の一つと考えられます。



また、乳がんは出生率の低下も罹患数増加の背景になっています。妊娠によるホルモン環境の変化や授乳は乳がんのリスクを減らすためです。肥満も原因の一つです。

感染型のがんを引き起こす病原体としては、胃がんのピロリ菌のほか、肝臓がんの原因の8～9割を占める肝炎ウイルス、子宮頸がんの原因となるHPVが知られています。胃がん、肝臓がんが減少する一方で、日本の子宮頸がん死亡率は増加しています。HPV感染は性交渉によるもので、性交渉の開始が低年齢化したため、今や30代が発症のピークで、20代でも急増しています。

がんは社会とともに姿を変えていく病気です。食生活の変化、運動不足、少子化、性行動の多様化など、マイナス面にも配慮しながら、時代に合った対策を進める必要があります。

生物模倣～バイオミメティクス～

～ハスの葉の撥水効果～

ハスの葉に水滴が落ちると表面張力で水滴が丸く固まったり、葉の上から転がり落ちる様子を見かけることがあります。ハスの葉は光沢が出ないロウのような物質で覆われており、さらに葉全体に非常に微細な鋭い突起が広がっています。この突起があることで水玉と葉に隙間を与え、超撥水性能（ロータス効果）を実現しています。ロータス効果はバイオミメティクスの一つとして知られており、テフロン加工のフライパン、ヨーグルト製品のふたの裏側、布の撥水加工、しゃもじ、防水スプレー、塗料など様々なところに应用され製品化されています。



今月の迷曲 vol.24

(youtubeで見られます)
Honesty/Billy Joel



(by 桜餅の葉っぱ)